



地本内の分会再編後、初めてとなる地方大会が市民会館3F会議室で開催されました。再編後7分会という少数組織となりましたが、各職場では問題が山積し、将来の不安も含め、改善のために闘い続けている報告と共に、運動を継続させていく意義を確認しました。
当分会からは、蘇我運輸区班の2名、飯高聡明さん（63歳）、竜崎好暢さん（62歳）が代議員として出席しました。

るが、そこに利用者への「サービス向上」や「安全安定輸送の品質向上」という考えは全く見えない。

今、地方のローカル線の廃止やバス路線への転換などの議論が始まっている。公共を一番に重んじなければならない鉄道事業者は、（鉄道しか）選択肢のない高齢者や学生たちの移動手段をどう解決しようと考えているのか。利用者の視点に立った運動を進めることを柱に議論を重ね、国労だから出来る運動を突き詰めていこう。

会社は「変革2027」のスピードアップで、効率化を急速に進め、黒字必達のための合理化

施策、「連携と融合」の名のもと、駅と乗務員区の兼務発令やイベント対策に設備社員を営業職

に派遣するなど、職域を越えた働かされ方に、職場の仲間は悩み苦しんでいる。

（重大事故多発で）安全第一を経営方針の柱とする鉄道会社とは思えない異常事態と言えるほどの現状を、労働者の団結で早急に軌道修正していこう。

国労組織の現状は存続の瀬戸際にある。労働組合の存在意義とは何か、国労に魅力はあるか、職場の不平、不満の受け皿になれるかが、勝敗の分かれ目ではないか。建設的かつ前向きな議論をお願いしたい」とあいさつがありました。

開会あいさつ

本大会で退任となる地本越川副委員長より、前日の大雨の影響で県内各地で被害（特に外房地区では床上浸水、電車の運転見合わせ等）が発生したことへのお見舞いと、困難な中結集されたことへの感謝が述べられました。

論していかなければならない。また、組織拡大も思い描く取り組みが進まない現状を何とか打破しなければならない。

今、労働運動が大きな存在で

第77回地本大会①

9月9日（土）10時半～ 市民会館3F

議長選出

定期地本
労働組合千葉地



千葉設備分会（千葉保技セ）の三好享さん（59歳）が選出されました。

あいさつの中で「要員の補充もなく、年配者がいなくなる中、技術継承に問題が出ている」旨の報告がありました。

執行委員長あいさつ

地本加藤執行委員長より「分会再編成も無事完了したが、組合員の年齢層から言って、組織のあり方を全体で引き続き議

はなくなっていることは事実であるが、会社施策を検証し、対峙出来る存在として労働組合が必要だという声は少ない。労働組合の必要性と存在意義を広め、職場に労働運動を残すためにも、諦めず加入を呼びかけていこう。

会社は存続のためにあらゆる「経費削減」「痛みを伴うコストダウン」で黒字経営を最優先し、施策を進めてい

